
創業期以来 100 年ぶり、2020 年に向け新ホテルを新橋に開業
「お茶」テーマ！ 客室で“茶屋体験”、茶道モチーフのデザインも随所に！
世界的デザイン会社が手掛ける“現代の茶屋”

抹茶やほうじ茶使ったヘルシー惣菜とスイーツのレストラン&デリも開業

ホテル、レストラン運営の老舗、1899 年創業の(株)龍名館(東京都千代田区、浜田敏男社長、資本金 5 千万円)は、「お茶」をテーマに、日本らしさを打ち出したブティックホテル「ホテル 1899(イチハチキウキュウ)東京」(1泊1室 2.3 万円～)を、新橋・虎ノ門エリア(港区新橋 6)に、2018 年 12 月 1 日(土)に開業しました。創業期以来、約 100 年ぶりに用地を取得し、建設するホテルで、当社の創業年を冠したブランド「1899」の第 1 号ホテルです。

敷地面積は約 370 平米で、地上 9 階建て(延べ床面積約 2400 平米)、客室数は 63 室です。

1 階には、抹茶やほうじ茶を使った和洋の惣菜を提供する、「日本茶」をテーマにしたレストラン&デリカテッセン「DELI&BAR (デリ&バル) 1899 TOKYO」を、2019 年 1 月 16 日(水)にグランドオープンしました。

建物全体のデザインコンセプトは「現代的に解釈された茶屋体験」で、世界的な建築デザイン会社(ゲンスラー・アンド・アソシエイツ・インターナショナル・リミテッド)が手掛けます。



腰をかけてくつろげる「茶屋の縁側」付きの客室

場所は、銀座・六本木・丸の内など、人気の観光地に近い好立地です。羽田空港からタクシーで約 20 分の近さで、JR やメトロなど 4 駅が徒歩圏内にあるアクセスの良さも売り出します。国内利用(観光、ビジネス)のほか、急増している訪日外国人もターゲットに運営します。

「茶屋」をイメージした、個性的な 4 タイプのデザイナーズルーム
縁側付き、茶せんモチーフのインテリアなど、モダンにアレンジされた“お茶文化”を...

63 室の客室(3F-9F)は、「茶屋をイメージした庵(いおり)」をコンセプトにした、個性的な 4 種のデザイナーズルームを用意し、部屋タイプは 2 人 1 室のダブル(18~20 平米)とツインルーム(33.6 平米)のみの対応です。

そのうち 35 の客室(「スーパーダブル A -IORI-」と「コーナーデラックスツイン」)には、縁側に見立てたベンチソファを設置します。



お茶を点てる「茶せん」がモチーフの照明を全室に

また 7 室(「スーパーダブル B-ENGAWA-」)は、客室のベッド側、奥半分の床全体を約 40cm 高くして「縁側」を演出するとともに、インテリアに溶け込むように、水場をベッド近くに配置します。室内のいたるところで茶屋の縁側のように腰をかけて、客室に置く 4 種の日本茶とともに、旅や仕事の疲れを癒していただきます。

全室ともに、茶道の道具である茶せんをモチーフにした照明や、茶室をイメージした丸い窓、緑茶を連想させるグリーンを基調としたカーペットやインテリアなど、“お茶”の要素を随所に散りばめています。

お客様を迎える2階のフロントは、茶室をイメージした設計です。カウンターに茶釜を用意し、お茶を知り尽くした“茶バリエ”が、湯の温度を管理しながら、煎茶を淹れるほか、ご希望に応じて抹茶を点て、もてなします。

館内全体で、モダンにアレンジされた“茶屋文化”を、感じていただけます。



左)奥半分の床全体を約40cm高くして「縁側」を演出、水場もベッド近くにしたコンセプト的な部屋
右)茶室をイメージしたフロント(2F)は、茶釜を置き、日本茶でもてなす。ご要望に応じて抹茶も点てる

シャンプーもルームウェアも「お茶」

客室のアメニティや備品も“お茶づくし”です。緑茶成分入りのシャンプーとボディーソープや、茶葉のイラストを刺しゅうしたホテルオリジナルのルームウェアなどを用意します。

室内には「1899」ブランドの4種の日本茶(煎茶、玉露、和紅茶、番茶などの10種から日替わりで選定)を、急須と湯呑のセットとともに用意します。「バルミューダ」の高機能電気ケトルを使って、至福の一杯をお楽しみいただけます。

快適な睡眠をサポート、「エアウィーヴ」と「京都西川」の寝具を採用

寝具と照明にもこだわり、快適な睡眠をサポートします。寝具は「エアウィーヴ」の「高反発マットレス」と合わせて同社の枕を全室に採用します。さらに枕は、寝具メーカー「京都西川」の「羽毛枕」と「パイプ枕」をツインルームに、「羽毛枕」をダブルルームに完備します。お好みの枕を選べる室内です。

ベッド周りの茶せんをモチーフにした照明は、白から黄色まで、“色温度”のボタンを押すことで好みの色合いに、細かく調節できます。最もリラックスできる照明で、睡眠していただけます。

フリーWi-Fi、無料スマホ「handy」など最新設備も完備

客室内は最新の設備も備えます。フリーWi-Fiはもちろん、国内外へフリー通話できるスマートフォン「handy(ハンディ)」を無料設置しているほか、空調や照明の調整や、枕などの貸出備品のリクエスト、内線電話、チェックアウトなどの操作が簡単にできる客室専用のタブレット端末なども準備します。

“お茶料理”や“お茶スイーツ”を提供する、デリカテッセン&レストラン 1Fに開業

ホテル1階は、“お茶料理”や“お茶スイーツ”を提供する、「日本茶」がテーマのレストラン兼デリカテッセン「DELI&BAR 1899 TOKYO」をオープンしています。朝食は、宿泊者向け限定で営業し、メニューをビュッフェスタイルで提供します。宿泊者は、無料でご利用いただけます。朝食のコンセプトは、「美味しいものを、あれこれ、少しずつ楽しめる、お食事どころ」です。

「お茶ソーセイジ」「チキングリル碾茶塩」といった“お茶料理”など惣菜少しづつを、「抹茶パン」「抹茶グラノーラ」などとともにお召し上がりいただきます。

宿泊者以外もご利用いただける、ランチ・カフェ・ディナー営業では、抹茶やほうじ茶など日本茶を使った和洋の惣菜を軸に、からだに優しいスープや 15:00 以降限定でおつまみなどを用意。惣菜は手ごろな価格設定です。料理は全て、テイクアウト可能なデリメニューとしても提供します。ヘルシーな“日本茶デリ”の数々は、オフィスでのランチや夕食としても便利です。



宿泊者限定の朝食は無料で提供！ヘルシーな“日本茶デリ”の数々をお好きなだけ、お食事いただけます

ミシュラン掲載ホテル（都内 2 軒）の運営ノウハウと

旅館時代から続く高品質なおもてなしが融合するホテル

新ホテル「ホテル 1899 東京」は、当社龍名館の 3 軒目のホテルです。2020 年に向けてますます激化するホテル戦争の中、2 軒のミシュランガイド掲載ホテル（「ホテル龍名館お茶の水本店」「ホテル龍名館東京」）の運営ノウハウに加え、旅館時代から続く、高品質なおもてなしやサービスといった文化を顧客にアピールします。

ホテル概要

ホテル名	ホテル 1899 東京	開業日	2018 年 12 月 1 日(土)
住所	〒105-0004 東京都港区新橋 6-4-1	客室数	63 室(2 人 1 室タイプ)
交通	「御成門駅」徒歩 6 分、「新橋駅」徒歩 10 分、「大門駅」徒歩 10 分、「浜松町駅」徒歩 15 分		
客室タイプ (4 タイプ)	「スーパーリアダブル A -IORI-」28 室(20 平米)／「スーパーリアダブル B -ENGAWA-」7 室(20 平米) 「スタンダードダブル」21 室(18 平米)／「コーナーデラックスツイン」7 室(33.6 平米)		
客室料金	1 泊 2 万 3000 円～4 万 5000 円	客室面積	17.9 ㎡～33.6 ㎡ ※平均 20.6 ㎡
延床面積	722.19 坪(2387 平米)	チェック時間	チェックイン 15 時、チェックアウト 12 時
駐車場	有料 2 台有り(1 泊 2500 円)	投資額	約 35 億円(用地代を含む)
売上目標	年間約 4 億円	目標宿泊客数	年間 20,000 組
施工	株式会社 大林組	ホームページ	https://1899.jp/hotels/tokyo/
運営会社	株式会社 龍名館	電話番号	03-3432-1899

1F レストラン概要

店舗名	DELI&BAR 1899 TOKYO (デリ&バル 1899 東京)		
グランドオープン	2019年1月16日	定休日	土日祝(朝食は無休)
営業時間	ランチ 11:30~14:00(L.O.13:30)/カフェ・ディナー 15:00~21:00(L.O.20:30) ※営業時間は、下記の「店舗ホームページ」でもご確認くださいませ。		
平均単価	ランチ 1000 円、カフェ 800 円、ディナー 3000 円		
延床面積	120 平米(36.3 坪)	席数	店内 42 席
電話番号	03-3432-1890	HP	https://1899.jp/hotels/tokyo/deli-bar/

株式会社龍名館 会社概要

所在地	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-4		
代表者	代表取締役社長 浜田敏男	創業	1899年(明治32年)6月
資本金	50,000,000 円	事業内容	旅館・飲食店・不動産経営
系列店	ホテル	「ホテル龍名館お茶の水本店」「ホテル龍名館東京」	
	レストラン	「RESTAURANT 1899 OCHANOMIZU」「花ごよみ東京」「紺碧の海」	

<ご参考資料>

老舗「龍名館」、おもてなしの心を受け継ぎながら、旅館からホテル業への転換へ

龍名館の源流である、1899年(明治32年)開業の旅館「旅館龍名館本店」は、日本画家の川村曼舟や伊東深水らはじめ、作家、芸術家など多くの文化人に愛されました。

作家の幸田露伴の次女である幸田文が、小説「流れる」で、帝国ホテルと並び在京の名店に挙げたほか、宿泊した画家が宿泊代の代わりに自身の絵を置くなどのエピソードが残ります。その高品質なサービスや文化、日本旅館のき

め細やかな“おもてなしの心”を受け継ぎながら、当社は昨今、旅館からホテル業への転換を進めてきました。2009年、東京駅前(八重洲)の「旅館呉服橋龍名館」(1963年「ホテル八重洲龍名館」に改称)を更地にして全面建て替えし、15階建て135室の「ホテル龍名館東京」を開業。2014年には、御茶ノ水の「旅館龍名館本店」を改修。一般旅館から小規模高級ホテルに業態を変更し、全9室のジュニアスイートでもてなす「ホテル龍名館お茶の水本店」として、開業しました。



1899年開業、木造時代の「旅館龍名館本店」

ミシュランガイドの高評価を得る2軒のホテル運営ノウハウを活用

新ホテル「ホテル1899東京」の運営には、「ミシュランガイド東京2019」に掲載されるなど、高い評価を得るホテル2棟(「ホテル龍名館お茶の水本店」「ホテル龍名館東京」)で培った、細かな顧客管理や商品企画などの販売ノウハウを活かします。特に東京駅前の「ホテル龍名館東京」は、過去9年連続で、売上を更新し続けています。2018年の宿泊稼働率は約90%で、宿泊人数の海外宿泊客比率は約52%です。海外でのウェブ展開や宿泊マニュアルづくり、人材育成などで互いに連動させます。

——— 本件に関する報道各位からのお問い合わせ先 ———

(株)龍名館 広報担当 濱田(はまだ)・山口 TEL:03-5298-2988 MAIL:p.r@ryumeikan.co.jp
 広報事務局(Clover PR内) 富田、福本、澤本 TEL:03-6452-5220 MAIL:cloverpr@cloverpr.net